

令和元年度 学校関係者評価書

学校名	北海道 浜頓別 高等学校	校長名	榆木 伸司	実施日	令和2年2月27日
-----	--------------	-----	-------	-----	-----------

1 学校教育目標

1 学力・体力をつくるとともに、情操を培う。 2 開拓者精神を受け継ぎ、創意工夫の実行力を養う。 3 明るく、楽しい社会の形成者としての資質を養う。
--

2 本年度の重点目標

<p style="margin: 0;">目標に向かって心豊かで、たくましく、主体的に行動できる生徒の育成を目指す。</p> <p style="margin: 0;">(1) 進んで学習に取り組む意欲・態度を培い、社会で生きる実践力を高める。</p> <p style="margin: 0;">(2) 挨拶の励行や生活習慣の改善を促し、自己をコントロールできる力を高める。</p> <p style="margin: 0;">(3) 進路に係る情報を進んで求める姿勢及び目標を定め、ねばり強く挑戦する姿勢を育む。</p>

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

【教育活動】

項目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	評価	自己評価の結果	改善の方策
【学習指導】 基礎・基本の定着と生徒自ら学ぶ態度及び思考力・判断力・表現力の育成	基礎的・基本的事項の定着と課題解決能力の育成	基礎基本の定着を図り、知識・技能の深化が課題解決能力の育成へと繋がっているか。	2.8	B	○習熟度別授業 英語、数学は習熟度別展開授業を実施し低学力者の基礎学力の定着を図り成果を上げている。	今年度は教員配置の関係から2展開で実施しているが、将来の進路実現のことを考えると可能なら3展開で実施したいところである。 学び直しの時間を設けていく。
	主体的・対話的で深い学びに資する授業改善の推進と評価の工夫	生徒が主体的に取り組むよう教材研究の充実を図り、思考力や表現力等の育成に向け、授業及び評価に改善・工夫を凝らしているか。	2.9	B	○公開授業週間の機会をはじめとして教科横断的に授業見学の交流を図った。アクティブラーニングなど生徒が主体的に取り組む授業の工夫が見られた。	公開授業の機会を増やし、また、研修会、研究会を通して更なる改善・工夫を促していきたい。 タブレットなどICT機器の充実
	生徒の学力の実態把握と学習習慣の定着化の推進	学びの基礎診断や朝学習等を活用し、個々の学習状況把握や習慣化に結びついているか。	2.5	C	○学年ごとに任されているが朝学習、朝読書を実施、また、今年度初めて学びの基礎診断テストを2月上旬に実施し結待ちである。講習等を実施し個々の学習の伸長を図っている。	学びの基礎診断の分析結果を共有、フィードバックしていく。 資格・検定を活用し学習機会を増やす。 週末課題等、生徒が取り組みやすい課題を用意し家庭学習の習慣化を図っていく。進路目標の早期決定を促す。学習の大切さについて情報提供を続け行く。
評価者の意見等	学力向上に向けて、学年団や教科担任が、日々の授業やHR活動の中で、週末課題、朝学習、宿題等工夫をしながら取り組んでいることがうかがえる。家庭学習習慣定着へ向けは、幼少期のコミュニケーション等、特に小中学校の生活習慣が大きく影響するので、連携を強化することで、改善に向けて進んで欲しい。やらされる学習から自らやる学習へ、指導を進めていくために、教員自身が他校の実践例を研究する等、意欲的に授業改善に取り組んで欲しい。				B	B
【生徒指導】 生徒の規範意識を高め、自他の人格を尊重しあう健全な心身の育成	SNS利用マナーを含む人権尊重意識の向上	情報リテラシー教育の充実を図り、人権尊重の考え方や規範意識が高まっているか。	2.6	B	○年度の前半に、スマホやSNSに関連したトラブルが複数発生した。そのため、KDDIより講師を招聘し、スマホ・ケータイのマナーについて生徒向けの講話を実施した。人権尊重に関しては、北海道医療大学の冨家先生に2回の講話を実施してもらった。	◇スマホ・ケータイ講話については、行事として組み入れて毎年早めの時期に実施できるようにする。生徒が主体となって、スマホのルールなどを決定できるよう指導していく。
	傾聴を重視し、面談等による生徒理解の推進	事故「0」に向け、面談や声かけにより、生徒理解を深め、個に応じた指導が進んでいるか。	3.2	B	○面談は各学年で複数回実施することができており、全体で生徒情報を共有する仕組みも作った。	◇教員と生徒間での相互理解のみならず、生徒間で相互に理解を深めサポートしあえるような力を付けさせるため、コミュニケーション力を向上させるような取り組みを増やしていく。
	生徒の社会性や自己有用感を育む体験活動の充実	生徒会行事の運営や部局活動での協働作業を通じて社会性や自己有用感が育っているか。	3.1	B	○生徒数減少により従来通りの行事運営や部局活動が困難になってきている。生徒会行事は前年通り実施できた。サッカー部が廃部となり、茶道部も卒業式後には部員ゼロとなる。	◇生徒数、教員数の減少に合わせた行事日程や行事内容への変更を考えていく。少年団から部活まで小中高と継続してスポーツなどができるように連携していく。
評価者の意見等	教育相談体制を充実させ、引き続き多様な生徒への対応をお願いしたい。SNS等スマートフォンの指導について、外部の方による講演会を実施したことは、評価できる。今後は、多方面の外部関係者も含めた講演会等を実施し、あらゆる角度からの指導を実践して欲しい。ケータイ、スマートフォンは生活習慣や学習習慣にも大きな影響を与えているので、教育という観点から、しっかりと説明した上で、生徒の手から離す時間を確保する等、依存防止も含めて、使用のルールを決めるのも一つの方法である。				B	B

【進路指導】 生徒の進路実現を支援し、自らが切磋琢磨して未来を切り拓く能力の育成（進路実現なら浜高）	学年進行を見据えたキャリア教育の推進	進路情報の共有に加え、面談の充実を図り、ミスマッチのない指導が推進できているか。	3.3	B	○今年度は、次年度より開始される給付型奨学金に関する校内研修を実施し、教員間での情報の共有を図るとともに、3学年の生徒へ情報を提供した。 また、昨年度に引き続き上級学校訪問を実施して本校教員へ情報を提供した。 ○昨年度に引き続き、キャリア教育の充実を図るため、町内を中心とする近隣企業や上級学校との協力によって進めることができた。	◇教務部と連携して給付型奨学金に関する生徒への情報提供を行うとともに、入試改革にともなって制度を変更する学校に関する情報の収集と共有を図る。 ◇次年度は生徒数の削減にともなって教員数も削減されるため、進路講習の見直しを進めるとともに、生徒数が削減されても適切なキャリア行事が実施できるよう、外部機関との連携や行事運営の改善を図る。	
	生徒の進路目標達成に向けた支援体制の充実	講習の充実・改善と生徒の内的動機付けを図り、組織的な生徒支援が実践できているか。	2.9	B			
	職業観・勤労観の醸成に向けた進路体験活動の充実	地域連携した就業体験や進路説明会の実施が資格取得や職業観の育成に繋がっているか。	3.2	B			
評価者の意見等	職場体験学習等のキャリア教育に力を入れ、地元企業の説明会や進学層段階などの多くの機会をもつことで、生徒の意識向上、地域活性化に役立っている。管内求人も多くあり企業説明会については、可能であれば、猿払村、中頓別町等の幅を広げることも検討して欲しい。また、インターンシップにも新規企業について検討して欲しい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						A	A
【健康安全指導】 心生徒の健康管理・心身の増強に向けた指導の充実と危機管理に資する安全教育の推進	生徒の健康管理・増進に向けた啓蒙指導の充実	生徒自らが健康管理に努めるよう保健室と連携を深め、計画的に情報提供ができていますか。	3.5	B	○生徒が健康管理に自ら取り組めるよう、保健指導の徹底や保健に関する情報の積極的な発信を行う必要がある。 ○全校の個人面談等を通して教育相談の充実を図ることができた。必要に応じて保護者や外部機関と情報共有を行うことができた。 ○定期的な安全点検を行い、軽微なものに関しては修繕できたが、大規模な修理が必要な場所に関しては未修繕である。	◇引き続き、教職員や保護者、外部機関と連携し、保健行事の円滑な実施をしていく。自校の健康課題に焦点を当てた指導ができるよう、面談や健康診断を通して課題を把握し、積極的に情報を発信する等改善に努める。 ◇継続して、全校生徒を対象とした健康相談を行い個に応じた教育相談体制の構築を図る。保健室で得られた情報や授業の様子等、情報共有を行い組織的な対応をしていく。 ◇計画的に点検を行い、修繕が必要なものに関しては迅速に対応し、生徒の安全管理に努める。	
	情報共有を密にした教育相談体制の充実	個に応じた教育相談や特別支援体制の充実により、効果的な情報共有が図られているか。	3.2	B			
	生徒の安全確保を最優先した危機管理体制の構築	危機管理を見据え、生徒の安全確保に向けた情報把握・発信が適切に行われているか。	3.1	B			
評価者の意見等	教育相談体制の充実が、生徒の安定した学校生活に大きく影響するので、引き続き、丁寧な指導を行ってほしい。自己の健康管理意識や安全意識を高める指導を、あらゆる角度から継続してほしい。また、心の不調が他に与える影響が大きいので、養護教諭の役割は非常に重要であり、先生方との連携を図り、変化を見逃さないようしっかりと観察して欲しい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						B	B

【学校運営】

項目	今年度の目標	目標達成のための方策と評価の観点	達成状況	評価	自己評価の結果	改善の方策
【地域に信頼される学校づくり】 地域とともに歩み、地域から信頼される学校づくりの推進	HPの更新及び学校便りの発行等の情報発信の充実	生徒・保護者・地域に向け、積極的な情報発信を行い、教育活動の周知が進んでいるか。	3.7	A	○HPのマイナーチェンジや、トップページの更新し易さ等がよい結果につながった。浜高だより、浜高ウェイブ、町広報など、内容を充実させ、さらに積極的な情報発信を行いたい。 ○中高連携、授業公開実施等取り組むことができたが、授業改善に向けて課題が残った。 ○地元関係者の協力のもと、教育資源を活用した体験型の授業を実施することができた。	○全教員がHP更新できるよう研修会を持つ等の改善を図る。また広報、お便り等についても、内容の改善とデジタル化の活用等を模索する。報道機関の活用、連携を強化する。 ○アンケート結果や評価結果をフィードバックさせ、授業改善へのPDCAサイクルを確立させる。 ○地域の各方面の専門分野の方をお招きしての講演会を実施するなどして、さらに内容を充実させていく。
	近隣の中学校・高校間での授業公開等の相互交流	中高連携による授業公開により、生徒の実態を把握し、適切に授業改善に繋げているか。	2.9	B		
	地域の教育資源の活用やイベント等への参加促進	自然資源や地域の企業・人材を活用し、地域連携による地域貢献活動が図られているか。	3.4	B		

	職員間の組織対応の強化に向けた情報共有の推進	報告・連絡・相談]体制を徹底し、共通認識の下、組織的に教育活動が展開できているか。	2.9	B	○職員の情報共有という点で、一定の意識向上が見られたが、共通認識、共通課題への取り組みという点で課題が残った。	○担任、学年、分掌による連携において、報告、連絡、相談さらに調整・確認の重要性を強く意識し協働体制による教育活動の推進を図る	
評価者の意見等	町民から、「広報を楽しみにしている」等の声を聞くことがあり、浜高への関心を持っていることが伺える。地域との連携強化について、多くのイベントへの参加や、ボランティア活動への取り組みなど積極的に取り組んでいる。地域の教育資源を活用した体験活動についても今後も継続して欲しい。引き続きホームページ等のピーアール活動を継続して行ってほしい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						A	A
【組織運営】 働き方改革を進め、学校課題の共有と迅速・的確な連携による協働体制の確立	前年度踏襲に拘らず、生徒支援に向けた実効性のある計画の策定と実践	業務削減を進め、実効性の高い教育活動の推進に向け、PDCA サイクルを活用し、協働体制の中で課題解決が計画的に進んでいるか。	2.4	C	○教育活動の実践、そのものが目的化する傾向にであったことが課題である。学校経営シラバスを強く意識し、より具体的な目標を掲げ、実践・評価・改善の確率に向けた、意識の統一を図る必要がある。 ○教育活動の即時反省、課題の重点化を行い、業務の効率化を図っているが、課題が多く残った。再度、業務の効率化について検討する必要がある。	○全教職員が学校経営シラバスの重点を、より強く意識し、あらゆる教育活動において、目標を明確に、共有し実践することが重要である。また、実践結果についてPDCAサイクルを確立させ、発展的に改善する体制を強化する。 ○単なる時間短縮ではなく、時間管理、業務管理を含めた効率化を図り、スクラップ&ビルドを活用し、新たな発想やアイデアを取り入れた、取り組みを実践する。	
	業務効率の改善を図り、迅速・的確な協働体制による学校運営の推進	時間外勤務縮減に向け、無理、ムラ、無駄を省き、共有データの活用、即時の反省・評価による業務改善が効率的に図られているか。	2.2	C			
評価者の意見等	経験も、年齢も若い先生が多い中で、熱心に取り組んでいることがうかがえる。まずは、しっかりと子どもと向き合い、暖かく包み込むような心で、生徒を指導していただきたい。先生方が自信を持って心を込めて指導をすることで、徐々にではあるが、生徒も成長していきます。浜高のために頑張ってください。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						C	B
【教職員の資質向上】 校内外における資質能力の向上に資する研修体制の充実	カリキュラム・マネジメントを活用した指導力の向上	I C T教材の活用や授業評価における工夫・改善が教科指導力の向上に繋がっているか。	2.5	C	○教員それぞれが工夫をしてI C T教材を活用しながら、生徒の興味、関心を高め、深い学びに向けた授業実践を行っているが、評価、改善において不十分点が多いため、課題が多く残っている。 ○各種通知や事故の情報等を職員に提供し注意喚起を促した。自己の問題として捉え、危機管理意識の向上を図る必要がある。 ○外部の研修（特に授業改善）に積極的な参加を促し、資質向上に努めたが、全体共有という点で課題が残った。 ○協働という点では比較的機能したが、支援、助言という点で課題が残った。	○教員個々の取り組みとどまっているので、研修会等と連動させ、学校全体として授業力向上につながる取り組みを実践したい。 ○日常の呼びかけとともに、職員会議や、研修の場をととして、危機管理意識を向上させる。事例研究等を積極的に取り入れ実践力向上に努めたい。 ○研修結果報告や、自らの実践報告など、互いに高め合う雰囲気作りのもと、研修活動の充実を図る。 ○「指導力向上」を意識させ、日々の実践を評価しあえる雰囲気作りと、ミドルリーダーが育つ環境づくりを行う。	
	教育公務員としての服務規律遵守の徹底	常に自身の言動に自覚と責任を持ち、信頼関係構築において適切な対応が取れているか。	3.5	B			
	高大接続と新学習指導要領を見据えた研修の推進	通知等の趣旨を踏まえ、自身の資質能力の向上に対し、効果的な研修が進んでいるか。	2.8	B			
	教員間における同僚性を高める助言体制の構築	初任者等に対し、先輩教諭が適宜助言を行う等、相互支援体制の強化が図られているか。	2.7	B			
評価者の意見等	他校の先生方との交流、他の機関との交流等、若い先生方が多い中、積極的に実践を積み重ね、指導力を向上させてほしい。I C T技術を活用した授業等のスキルは向上しているように伺える。保護者との対応や生徒への対応等、人間関係のスキルも非常に重要であるため、向上に努めてほしい。経験によって、積み重なる部分も多いが、研修等を積極手に実施するなどしてほしい。					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
						B	C

自己評価の指標

【達成状況の指標（各教職員による評価）】

- 4 具体的な取り組みが行われており、目標等の達成が期待できる。
- 3 具体的な取り組みが行われている。または、具体的な取り組みに向けて積極的に検討中である。
- 2 組織（分掌・学年等）として一般的な議論はしたが、具体的な取り組みに向けての検討に至っていない。
- 1 課題の重要度は理解しているが、全くあるいはほとんど検討していない。

【評価の指標】

- A 十分な取組が行われた。 B おおむね十分な取組が行われた。 C やや取組が不十分で改善が必要である。
- D 取組が不十分で抜本的な改善が必要である。

学校関係者評価の指標

【自己評価の適切さに対する指標】

- A 適切な評価である。 B ほぼ適切な評価である。
- C やや不適切な評価である。 D 不適切な評価である

【改善に向けた取組の適切さに関する指標】

- A 十分な効果が期待できる。 B ほぼ十分な効果が期待できる。
- C あまり効果が期待できない。 D まったく効果は期待できず、改善を要する。